

2013年4月26日
マツダ株式会社

2013年3月期 通期 決算発表
主な質疑応答

1. 5期ぶりの当期利益黒字についての感想を教えてください。

- A. 4期連続赤字の時は歴史的な円高に苦しんできました。これにへこたれず、ビジネス構造の改革に取り組んだ成果が前期(2013年3月期)の黒字化に結びつきました。ぶれることなくSKYACTIV技術の開発、コスト改善を実現するモノ造り革新、売り方革新に取り組んでまいりました。SKYACTIV搭載車は、第4四半期の実績を分析すると、全体の3割の台数で利益の6割を稼いでいます。他のクルマの3.5倍の利益が出る計算になります。今後導入するクルマも高い利益率を確保できる見通しで、当社グループあげての大きな自信となっています。

2. 今期も配当見送りとのことだが、復配について教えてください。

- A. 配当は各期の業績並びに経営環境を勘案して決める方針です。前期につきましては、当期利益は確保しましたが、単体の繰越利益剰余金はまだ赤字なので、配当を見送らせて頂きます。今期につきましても、引き続き単体では繰越利益剰余金は赤字と思われます。従って今期も非常に厳しい状況です。2016年3月期までの復配を目指してまいります。

3. SKYACTIV車両の販売状況について教えてください。

- A. フルSKYACTIV車両の販売比率は前期の19%から、今期は3車種で41%になる見通しです。今下期にフルSKYACTIV車両第3弾の導入を予定しており、下期のフルSKYACTIV比率は50%になります。2016年3月期までに8車種導入するという計画に沿って、しっかり取り組んでいます。

4. 今期の見通しについて教えてください。

- A. 4期連続赤字の時は、厳しい残業規制などを行い、キャッシュも厳しく抑制してきました。その中で、CX-5やアテンザの販売は好調で、次の新商品も同様に高い評価頂けると自信を持っていますし、シナリオ通りに進んでいます。
今期は、2016年3月期のグローバル販売170万台、営業利益1,500億円に向け、商品主導で中長期計画を実現するスタートの年として取り組んでまいります。